

『時事直言』 No.873 2013年11月21日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>

FAX：03-3955-6466



時事評論家 増田俊男

日米株価差

日米金利差という言葉は為替の話によく出て来るが「日米株価差」はあまり聞かないだろう。

「アメリカの株価は峠を越した」と今日の「ここ一番!」で述べた。

年初 14,000 ドルであった NY ダウは先週待望の高値 16,000 ドル台を付けた後徐々に下げに転じている。

ここまで NY 株価が上がった理由はイエレン次期 FRB 議長の緩和縮小無期延期的発言などがあるが、株価の上げ下げの理由はほとんど後付けで、本当の理由は株価が「上げ基調か、下げ基調か」によって決まる。

峠を越したアメリカの株価は「下げ基調」だが、では日本の株価はどうだろうか。

日米株価が年初来上げてきたのは言うまでもなく緩和資金である。

このことについて日米株価は同じである。

違うのは FRB (アメリカ) が緩和縮小と廃止を来年に決めているのに対して、日銀は本年 4 月、量的には FRB の 3 倍規模の大緩和政策を開始し、向う 2 年間続行する点である。

アメリカは中止、日本は開始、続行。

日米株価は緩和資金頼りなら、アメリカの株価は「下げ基調」、日本の株価は「上げ基調」となるので「日米株価差」は拡大する。

NY ダウは史上最高値 (16,000 ドル台) を付けたばかりだということに、ニッケイ平均は年初来高値 (15,942 円) から約 1,600 円低い 14,300 円である。

今年になって先進国で大型金融緩和を始めたのは日本だけだから、先進国間で投資資金がどう流れるかは一目瞭然である。

今後 NY 株価が大きく下がればニッケイも影響を受けるが、回復はニッケイ主導になることは間違いない。

アメリカで緩和縮小の時期が議論される度にドル・円が 100 円を付けると直ぐにまた円高で 99 - 98 円になるのを繰り返すことになる。

(「時事直言」の読者にもたまには株価についてお願いしますという読者にお応えいたしました)

大好評発売中! 増田俊男の小冊子 Vol.51

『2013 年大総括・2014 年大予測 本物の時代が来るか! ?』

現在、増田俊男の小冊子 VOL.51 を大好評発売中です。*ドル衰退の歴史 *基軸通貨を狙うユーロと人民元 *偽物と本物の差で儲ける秘策等の内容となっております。詳しいご案内、お申込みについては増田俊男事務所 (Tel: 03 3955-6686) までご連絡下さい。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前に株式会社増田俊男事務所 (Tel: 03-3955-6686) までお知らせ下さい。